

# 中国新聞

備後

4月7日 土

## 大長寿時代の 心配事

### 認知症が進む母の遠距離介護。どこまで頑張れば...

なにより増える母を育てるまで支え続けられるか。考える暇がありません。

認知症に気が付いたのはおとし。頻りにお金の無心するようになり、帰省時に通帳を確認すると毎月10万円以上が買物で支払われて消えていきました。訪問販売の業者が出入りしていたようです。2年で1千万円近くを失っていました。

驚いて、母の要介護認定を取り、介護保険サービスの利用を始めた。週2日入浴付きのデイサービス、残り5日は夕飯の配達をお願いしています。

ただ、母の認知症は進行しています。料理をしなくなり、冷蔵庫に皿やしゃもじを入れるようになりました。帰省時におにぎりやスナック菓子を買って帰りますが、冷たいまま食べています。

埼玉から広島へ月一回帰省し、2泊3日で母の世話をしています。またお昼のパンやお菓子ばかり食べてくれるので、おにぎりやパンを食べて心配です。

母は30年住んだ自宅を離れたいといっています。でも、埼玉から広島に通うのは交通費がかかります。

## 帰省に6時間 へとへと



「この世にいたいんだよ」。帰省時、母は泣きながら語り添う女性

通帳もぼろぼろになりません。海外にいて母の世話をせざるを得ない母を心配して、いつまでも母を一人にしておけるの、何となくおぼえています。

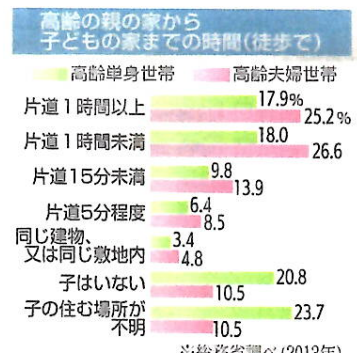
ただ、片道の時間の帰省は、アスファルトのかき、壁のへんとへんになります。

私の仕事や家族の生活を

## 遠距離の子 親の片道1時間以上はさら

一人暮らしや夫婦で暮らす高齢者が増える中、遠く離れた専ら子親を育てる子どもが通って介護する「遠距離介護」の悩みも増えている。

2013年の総務省の調査では、65歳以上の一人暮らし世帯では6世帯に1世帯、高齢夫婦世帯では4世帯に1世帯が、子どもが住んでいる場所まで



### お答えします



介護事業に取り組み NPO法人地域の絆 福山市

中島康晴代表理事 44

「住み慣れた自宅で暮らしたい」というお母さまの思いを尊重されるのは、大切なことです。ただ、介護のために家族が倒れては元も子もありません。娘さんが疲弊しないために必要なのは、発達の転換ではないでしょうか。

## 「ご近所の見守り力」味方に

事業所への相談は、困ったことが優先して、具体的にお願いしたい。」「配食をお願いしたい。」「お母さまの食事に栄養面が不安がある」と伝えれば、問題がはつきります。電話でいいので担当者とよく話し合い、サポート内容を調整しましょう。

お母さまを地域で見守る第三者との関係づくりができれば、帰省を増やなくても安心して在宅で過ごすことができます。遠距離介護を続けるには、本人が「その人らしい暮らし」を迎えられるよう支えてくれる事業所を連携させることが大切です。相談しやすいような見守り力をつけましょう。

老親と離れている子どもには何ができるのか。そばにいられない不安をどうすれば軽減できるのか。皆さんの体験をお寄せください。(標葉知美)

### 不安軽減 どうすれば

遠距離介護を悩みながらも献身的に続ける、埼玉の娘さんの姿に頭が下がりました。

### 取材して

◆随時掲載します